

大阪湾再生に係るアウトカム指標について(概要)

1. 目的

- 大阪湾再生行動計画の実効性を高めるためには、行政機関による施策だけではなく、一般市民、NPO、学識者、企業といった、多様な主体との連携・協働の取り組みが不可欠であり、昨年度の中間評価においても「多様な主体との協働をさらに推進する必要がある」と評価したところである。
- 取組に関する一般市民へのPRやNPO等との連携・協働を推進するためには、多様な主体が共有できる分かりやすい指標が必要である。
- これらのことから、大阪湾の海域環境や集水域の特性を踏まえた上で、**大阪湾再生の取り組みの効果を具体的に評価することが可能なアウトカム指標を設定する。**

2. 考え方

- 大阪湾再生行動計画の「大阪湾再生に係る具体的な目標及び指標」においては、「底層DO」、「表層COD」及び「浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ」など、既にアウトカムの指標もあげられているが、「干潟、藻場、浅場等の面積」、「砂浜、磯浜等の延長」、「自然的な海岸線延長」及び「臨海部における海に面した緑地の面積」については施策量を示すアウトプットの指標であり、取組の効果を適切に評価するには不十分であると考えられる。
- したがって、再生の取組の効果がより具体的に把握できるように、**現在設定している指標に加え、これらを補完する新たなアウトカム指標を設定する。**

3. アウトカム指標の候補

- 大阪湾再生行動計画の効果を具体的に評価できるアウトカム指標として、以下の観点から網羅的に候補の抽出を行った。
 - a)「**大阪湾再生行動計画の目標**」(～森・川・海のネットワークを通じて、美しく親しみやすい豊かな「魚庭(なにかわ)の海」を回復し、京阪神都市圏として市民が誇りうる「大阪湾」を創出する～)に関する指標
 - b)「**大阪湾再生に係る具体的な目標及び指標**」に関する指標
 - c)「**アピールポイントにおける改善後のイメージ**」のうち、大阪湾全体に適用可能な指標

4. アウトカム指標の選定

- アウトカム指標の候補について、以下の4つの要件に着目し、比較・検討を行った(右上の表を参照)。
 - 1) **行動計画の目標を具体化できる指標であること**
 - ・大阪湾再生行動計画の目標の達成状況を評価する指標であることから、大阪湾再生の目標をより具体的に示した指標及び望ましい水準として設定することが重要である。
 - 2) **施策との関連が分かりやすい指標であること**
 - ・アウトカム指標のモニタリング結果から、将来的に大阪湾再生行動計画へフィードバックができるよう、施策内容との関連が明確で、改善効果が十分把握できるものであることが重要である。
 - 3) **市民に分かりやすい指標であること**
 - ・大阪湾再生の推進に当たっては多様な主体との連携・協働が不可欠であり、多くの主体と情報や知見が共有できることが望ましいと考えられるため、市民にも分かりやすい指標であることが重要である。
 - 4) **モニタリングが可能な指標であること**
 - ・設定した目標の達成状況を評価し、その結果を施策へ反映するためには、モニタリングが可能な指標であることが重要である。

		指標の要件	行動計画の目標を具体化できる指標	施策との関連が分かりやすい指標	市民に分かりやすい指標	モニタリングが可能な指標	指標としての適否
アウトカム指標の候補							
多様な生物の生息・生育	生物に関する指標	底生生物の生息状況	○	○	○	△	◎
		海岸生物等の生息状況	○	○	○	△	◎
		生物の多様度指数	○	○	△	△	
		大阪湾の漁獲量	○	△	○	△	
		鳥類(水鳥)の生息状況	△	○	○	△	
	水質に関する指標	透明度	○	○	○	○	◎
		赤潮の状況	○	○	○	△	◎
青潮の状況		○	△	○	△		
人と海との関わり	臨海部の親水施設等の利用者数	○	△	○	△～×		
	海水浴場等への来訪者数	○	△	○	△～×		
	環境教育・学習の参加者数	△	○	△	○	◎	
	大阪湾に対するイメージ	○	○	○	△	◎	
	クリーンアップキャンペーンへの参加者数	△	○	○	○	◎	
	森林ボランティアへの参加者数	△	△	△	○		
(備考)		○:直接的に関係する △:間接的に関係する ×:関係が乏しい	○:施策との関係が明確 △:施策との関係がやや不明瞭 ×:施策との関係が不明確	○:一般に分かりやすい △:一般にはやや分りにくい ×:一般には分りにくい	○:既存の調査がある △:一部実施されている ×:新規の調査が必要	◎:アウトカム指標として適合する	

5. 大阪湾再生行動計画における取扱い(案)

- 大阪湾再生行動計画の「大阪湾再生に係る具体的な目標及び指標」に加え、**以下の7項目の指標を用いて取組による効果の評価を行う。**(なお、7項目に関する評価は、モニタリング方法等を検証しつつ、当面の間、試行として実施する。)
 - <多様な生物の生息・生育/生物に関する指標>
 - ①底生生物の生息状況 (「大阪府等による底生生物調査」結果を使用)
 - ②海岸生物等の生息状況 (「大阪湾生きもの一斉調査」(神戸港湾空港技術調査事務所)結果等を使用)
 - <多様な生物の生息・生育/水質に関する指標>
 - ③透明度 (「公共用水域水質測定」(大阪府、兵庫県等)を使用)
 - ④赤潮の状況 (「瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所)を使用)
 - <人と海との関わり>
 - ⑤環境教育・学習の参加者数 (各主体(国土交通省、環境省、各府県市等)の実施結果を使用)
 - ⑥大阪湾に対するイメージ (「アンケート調査」(推進会議が適宜実施)結果を使用)
 - ⑦クリーンアップキャンペーンへの参加者数 (各主体(国土交通省、各府県市等)の実施結果を使用)

大阪湾再生に係る具体的な目標及び指標

具体的な目標	指標
年間を通して底生生物が生息できる水質レベルを確保する	底層DO ・5mg/L以上(当量は3mg/L)
海域生物の生息に重要な場を再生する	干潟、藻場、浅場等の面積 砂浜、磯浜等の延長
人々の親水活動に適した水質レベルを確保する	表層COD ・散策、展望:5mg/L以下 ・潮干狩り:3mg/L以下 ・海水浴:2mg/L以下 ・ダイビング:1mg/L以下
人々が快適に海に触れ合える場を再生する	自然的な海岸線延長
臨海部での人々の憩いの場を確保する	臨海部における海に面した緑地の面積
ごみのない美しい海岸線・海域を確保する	浮遊ごみ、漂着ごみ、海底ごみ